

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	文献演習 久保クラス		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期よりも、個人の裁量にゆだねる要素が多い秋学期の課題でした。

チューターの仕事としては、論文のテーマ設定や論の展開についてのアドバイスを学生からの報告の際に行うことが中心でした。また、文献の調べ方（特に論文）がわかっていない学生や、書庫の使い方を知らなかった学生などにやり方を教えることもありました。

学生の間でも論文の集め方を知らない学生がおり、本だけしか参考文献として挙げてこない学生も前半はいて、個人差が見られました。FYS で指導される先生によって、指導内容はバラバラなのはわかるのですが個人の差（能力ではなく、知るか知らないかだけの問題ではあるが）はできるだけなくす方がいいと感じた。これはあくまで実感だが、三回生にも論文の調べ方を知らない学生が多くいる気がする。文献演習時あるいは、FYS の時点、どちらで教えるかはいいにせよ、三年生になる時点で最低限身につける能力だと思う。この点に関しては、今回の文献クラスを受講された学生さんたちは一年間で身につけてくれたはずなので、よかったと思う。

なにより学ばせてもらったのは自分自身なのでこの場を借りて感謝したい。二回生にとっては、教員、TA とはまた違い、力不足の私をチューターとおいても大きなメリットにはならない。自分以上に文章能力が高い学生や論理的な思考を行うことのできる学生がたくさんいる環境であったため、コメントしづらいことも少なくなかった。ただ、そのような環境の中で、どうやったらいいアドバイスになるのか、学生の関心を得ることができているのかを考えることはよい勉強の場になった。講義を受講するのは異なる違った視点で講義に参加できたのは一つの財産だと思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

演習途中で二回ほどおこなった、三人でのグループワークと意見発表の時間は、できれば回数を増やせたらと思います。増やしたい理由としては、学生に発言機会や学生同士の議論のきっかけ、仲良くなる機会などに大変有効だと思うからです。講義前から学生間の距離が近ければいいのですが、学年によってはそうはいかない場合もありえます。文献演習の目的は、仲良くなることだとは思いますが、発言する機会を増やすことは論文の作成にもよい影響を与えたいと思います。

あるいは、春学期のように二人で同じ課題をこなすなどすることも、お互いを参考にし合えるためいいのではないのでしょうか。

加えて、文献演習の春学期の時点で学生が習得すべき能力・技能をはっきりわかると、より授業が素敵なものになると思います。なんとなく感じる部分はあるのですが、、、示していただけたらよりチューターも少しながら役立つことができるように思います。